

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	令和 5年 2月 8日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 5年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の運営するホームであり、病院が隣接しており入居者の急変に迅速に対応できる。人工透析の方も受け入れてきている。介護員等の経管栄養、喀痰吸引の施設登録も行っているため、医療度の高い方も受け入れている。在宅総合診療で医師がホームへ訪問診療行い少しの変化にも対応し、重症化や入院を防ぐことができる。最期の家となるべく「看取り」を行っており、安心して最期の時を迎えることができるように対応している。コロナ禍で面会に際してはiPadを利用したり、流行の度合に応じて面会ルールを替え少しでも面会できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人である医療機関に隣接しているホームである。コロナ前は、隣接する保育園との交流、夏祭りを通して近隣住民との交流等が図られていたが、感染防止のためすべての行事が中止となっていた。現在感染対策を取りながら、徐々に家族との面会の機会を設けるなど、前向きに交流の機会を検討されている。医療機関との連携というホームの強みを生かし、医療ニーズが高い入居者へも対応できる体制がとられ、入居者、家族の安心に繋がっている。また、勤務年数が高い職員が多く、ホームの理念を理解し、日々入居者が安心して楽しく暮らし続けられるよう、お互いがお互いを気遣うという雰囲気の中、管理者を中心に職員一体となり取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	1F	2F			1F	2F	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供し続ける」を確認しあい、行動基準の追加項目についてもスタッフに周知している	法人理念、グループホーム理念は、申し送り時に確認し意識化されている。職員の勤務歴も長く、日々のケアの中に浸透している。また、理念は玄関及び事務所内の目に付く所に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより、夏祭り等の行事が中止となり、交流会ができていない	夏祭り等の行事や近隣の保育園との交流はコロナの影響ですべて中止となっている。近隣住民とは会えば挨拶する等、機会は限られているが、日常生活の中で自然な交流は継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が持てず貢献できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度行っている	2ヶ月に1回、書面もしくはコロナの状況を見ながら、対面での会議が開催されている。家族の参加も多く、市関係者を交え、行事や入居者の状態報告、意見交換が行われている。しかし、地域住民の参加が現在はない。	役員の交代、コロナ禍という状況もあるが、会議の重要なメンバーとして、地域住民や地区の役員等への参加の呼びかけ方を工夫する等、参加に繋がるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者状況報告や事故報告など介護保険課に赴き、わからないことなどは質問している	市関係者とは、わからない事等があれば、気軽に相談できる関係が構築されている。また市から求められれば、空き状況等含め情報提供が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4点柵をこなっているのが、カンファレンスを行っている。実施記録も残している	身体拘束等の研修は、地域包括支援センターから講師を招く等、定期的開催され、職員の意識化が図られている。身体拘束適正委員会が設置され、毎月委員会を開催し、必要な手順がふまれている。状況により4点柵の使用はまだすべて解除には至っていない。	記録を取り、毎月カンファレンスが行われているが、身体拘束に頼らないケアを工夫し、解除に向けた取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモート研修に参加、包括のスタッフから講義を受けるなどの勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修が行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時は、契約書・重要事項説明書を読み上げ行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、ご家族の声を聴くようにしている	運営推進会議の時や、毎月の便り、電話等で、入居者の状態が報告され、家族からの意見や希望を聞き取る機会とされている。出された意見等は全体で共有し、運営に活かすよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今期はコロナ禍でカンファレンスが行えていない。個人の意見をその場で聞いて検討し、上層部へ意見を上げている	勉強会、朝の申し送り時、個別での面談の中で意見を聞き取り、法人へ相談し運営に活かせるものは運営に反映されている。”お互いがお互いを気遣う”全体の雰囲気づくりに努められ、管理者を中心に良好な関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を行う機会がありその際に個人面談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内のネットでの研修はできているが、外部への研修参加はできていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により他事業所へ行く機会はほぼない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は言動に注意し早急に必要なものや介護ケアについてスタッフ間で共有し、ご家族への状態報告を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居で「帰りたい」「帰ります」などの声も聴かれるが、電話で声をきくなどして不安解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のADLにあったケアを行い、状態の改善に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うなど行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限があるが、希望があれば電話をかけて会話するなどしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	安易な外出ができないため、交流ができていない。	家族との面会、ハガキや携帯電話でのやり取りの支援等、コロナ禍でも関係が途切れないよう工夫されている。馴染みの場所の希望をとり、生家を訪問する機会等も計画され、徐々に個別で対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格を考慮して食事テーブルの配置など考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時(死亡退去)の時は、お通夜に参列させていただくなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン変更は定期的に行っている	入居者と職員が居室等で個別に話をする機会や、ケアプラン作成時のアセスメントの機会等を利用し、思いや意向の把握に努められている。困難な場合は、日頃の行動やアセスメント情報等により、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネなどの情報をいただきながら、スムーズに進むようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯、夜勤帯と入居者によりリズムが違うので、本人のリズムを大切にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に観察や介助のポイントを把握し、スタッフの意見も反映する。	本人、家族から意見や希望を聞き取り、主治医、職員等の要望や意見もふまえ、アセスメント、モニタリング、評価、担当者会議という一連の流れを経て、計画が作成されている。定期、随時の見直しも適切に実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専門用語ばかりでなく、ありのままの記録になるように指導している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の体調や気分に応じてレクリエーションや手作業などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	庭の手入れは外注している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在総診、かかりつけ医の往診の対応している	入居時に希望を確認し、元々の主治医、もしくはホームの協力医のもとで適切な受診が行われている。専門医受診もホームで対応され、受診情報は家族や職員間で共有し、適切に管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの小さな気づきを共有し、看護師や在総診看護師に対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の入院では、退院支援看護師との連携で短時間での入院になるように対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初から急変や看取りについての話を行っている。家族間の意思の統一をお願いしている。	重度化や終末期に向けた対応については、入居時に説明を行い、家族の意向を確認し同意もとられている。状態変化時は主治医、家族を交え話し合いの場を持ち、方針を共有し、希望されれば、看取りへの対応も可能な体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法を年1回消防署の研修を受けている(11月に予定していたが、コロナ陽性者多くなり延期となっている。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている	夜間想定での火災避難訓練を年2回実施し、避難経路も確認されている。 Consentチェック等日々の点検にも努められ、その他の災害への対応についてもマニュアルが作成され、全体で共有されている。しかし、地域との協力体制が不十分である。	地元消防団がなく、災害時に地域の連携が難しい状況ではあるが、次へのステップとして、地域との協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴時、また自室ですごしている時間のドアの開閉に注意している	入居者の尊厳を大切にした対応や言葉かけに努め、気になる事があれば、その都度個別に注意を促されている。記録物も適切に管理され、気になるような言葉かけ、対応は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にできない方のうろろするなどの動きに注意し、うろろする原因を知る努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったレクリエーションがあるわけでもないので、ゆったりした時間を過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節が理解できない方もいるので、スタッフで衣装替え等おこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事にこだわっている。利用者がもやしやの根などを取ることを手伝ってくれる	各々のユニットで調理され、食材の下処理、お盆拭き等、入居者の能力に応じた役割を設けられている。また、雛祭り、節分、おせち等季節毎の行事食、誕生日の希望食、おやつ作り等、より食事を楽しむ事ができるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限がある方は計量して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で十分にできない方はそばにつき仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄をすすめている	排泄チェック表で排泄の状態を把握し、個々にトイレへの誘導が行われ、排泄の自立に向けたケアに努められている。また、プライバシーを損ねないよう、言葉かけにも注意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、自然な排便ができない方には必要に応じて下剤の使用をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方もいるので、誘導に気を付けている。無理強いしないようにしている	週に2回以上入浴ができるよう、毎日入浴は実施されており、入居者の希望に応じ、入浴順や曜日の変更等柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる明け眠剤の使用はしないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬など飲み忘れしないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方がいるので、分担している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出できない状態である	ホームの周囲に遊歩道が作られ、天気の良い日は、遊歩道やホーム周辺を散歩されている。また、季節の花見、個別での外食の機会など、感染対策を取りながら、できる範囲で外出の継続に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の変更や、ADLの変化に応じてフロアの家具の配置や個室のベッドの位置を変更している	リビングは南に面し、明るく、温度や湿度も適切に管理されている。入居者が作成した季節毎のちぎり絵が飾られ、窓越しには桜の大木も眺められる等、居ながらにして季節が感じられ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前ソファで自由に過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間のため必要以上に荷物は増えないように季節のものはご家族の協力を得ている	入居者の動きに合わせて、家具やベッドを配置し、室内には入居者や家族の写真、好みの物が飾られる等、それぞれが居心地よく、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子での移動や付き添いが必要な方が安心して自由に動けるように配置を工夫している		